

「の」の過剰使用と「的」の影響

—1音節と2音節形容詞の調査—

秦 明 星
(日本語学)
丸 田 忠 雄
(言語学)

キーワード：名詞修飾「の」の過剰使用 中国語母語話者 1音節形容詞 2音節形容詞

1 はじめに

中国語母語話者が第二言語として日本語を習得する過程において、名詞修飾に見られる「の」の過剰使用は言語転移（母語の影響）の様相を探る上で研究課題の一つとしてよく取り上げられている。「の」の過剰使用とは、「可愛い猫」「静かのところ」「作った料理」のように名詞修飾において「の」を使用すべきではない箇所を使用する現象である。

従来の中国語母語話者に関する調査研究では、名詞修飾を習得する際に、修飾語品詞（イ形容詞・ナ形容詞・動詞）に関わらず、「の」の過剰使用は多く観察されている。これは中国語の助詞「的」の影響によるものと指摘されている（鈴木1985；張2002；秦・丸田2006）。また「の」の過剰使用の種類では、修飾語がイ形容詞の誤用がいちばん多いことが明らかとなっている（迫田1999；秦・丸田2006）。

ただし、中国語では形容詞が名詞を修飾する場合、必ずしも「的」が入るとは限らない。例えば、「甜食（甘いもの）」「好事（良い事）」のように、形容詞も名詞も1音節の場合は、その間に「的」が入らないし、また、「新电脑（新しいパソコン）」「旧报纸（古い新聞）」のように、形容詞が1音節で、名詞が2音節の場合は形容詞と名詞の間に「的」が入らないのが一般的である。「新电脑」を「新的电脑」にすると、「旧的电脑」（古いパソコン）に対して比較するか強調することになる。

一方、形容詞が2音節で、名詞が1音節（「无聊的话（つまらない話）」「最长的河（一番長い川）」）または2音節（「年轻的时候（若い時）」「可爱的小猫（可愛い猫）」）の場合は、形容詞と名詞の間に「的」が入るのが一般的である。また、「有意思的电影（面白い映画）」のように、多音節の形容詞が名詞を修飾する場合も、「的」が必要である。

なお、本稿では「1音節形容詞」（「的」なし）とは、原則として名詞を修飾する際に「的」を必要としない1文字の形容詞を指すことにする。便宜上、調査文にある「黑色

圆珠笔（黒いボールペン）」のような、2文字ではあるが名詞を修飾する際に通常「的」を用いない形容詞（「黒色」）もこれに含めることとする。また、「2音節形容詞」（「的あり」とは、名詞を修飾する時に「的」を必要とする2文字以上の形容詞を指すこととする。

2 研究の目的

国際化に伴って国際結婚による在住外国人が増えつつある。その中で日本人配偶者として来日した人及びその呼び寄せなどによって来日した年少者は少なくない。

本稿の目的では中国語母語話者である日本人配偶者および年少学習者を対象に、日本語の名詞修飾（本稿では修飾語をイ形容詞に絞る）を習得する過程の中で、中国語で1音節形容詞と2音節形容詞が名詞を修飾する際に見られる助詞「の」の過剰使用状況を調査し、中国語の助詞「的」からどのような影響を受けているのかを明らかにすることである。

3 発話調査

3.1 調査対象者

山形市周辺に在住している中国語母語話者36名。

①成人18名（A～R）。国際結婚の日本人配偶者。日本滞在歴は2年～6年前後である。

②年少者18名（a～r）。年齢は9歳～20歳で、日本滞在歴は9ヶ月～3年前後である。うち、15名は在学中の生徒で、3名は日本語教室を経て働いている。

なお、成人のA～Lの12名と年少者のa～lの12名は親子の関係にある。

3.2 調査内容と調査方法

事前に各自の被調査者に電話等で連絡し調査の旨を伝え、理解を得てから、調査の時間と場所を決める。場所は基本的に被調査者の自宅である。

当日調査の前に被調査者と雑談等をして、リラックスしてもらってから調査に入る。

中国語の形容詞の名詞修飾からなる短文20文を用意する（1音節10文と2音節10文、付録を参照）。また被調査者に調査の内容は形容詞であることを意識せずに答えてもらうためにダミー一文5文を用意する。この25の短文を被調査者に1文ずつ言い聞かせ、即

時に日本語に訳してもらう(即時訳出法)。その訳文をテープにとり文字化し分析する。

3.3 調査結果

3.3.1成人における「の」の過剰使用状況

表1は成人(調査順)における「の」の過剰使用状況である。

被調査者18名中、Qを除いて17名に「の」の過剰使用が現れた。その内訳を見ると、中国語で名詞の修飾語が1音節形容詞(「的」なし)と2音節形容詞(「的」あり)の両方で「の」過剰使用が現れた者が15名で、修飾語が2音節形容詞のみで現れた者が2名である。

「の」の過剰使用数について見ると、1音節形容詞(「的」なし)と2音節形容詞(「的」あり)による「の」の過剰使用総数はそれぞれ70と95である。

表1 成人における「の」の過剰使用状況(数字は過剰使用数)

被調査者 調査内容	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
1音節形容詞 (「的」なし)	8	5	10	0	1	1	1	9	3	0	6	4	3	9	6	3	0	1
2音節形容詞 (「的」あり)	6	3	10	3	3	3	2	10	8	1	8	8	6	8	8	6	0	2

3.3.2年少者における「の」の過剰使用状況

表2は年少者(調査順)における「の」の過剰使用状況である。

被調査者18名中8名に「の」の過剰使用が現れた。その内訳を見ると、中国語で名詞の修飾語が1音節形容詞(「的」なし)と2音節形容詞(「的」あり)の両方で「の」過剰使用が現れた者が3名で、修飾語が2音節形容詞のみで現れた者が5名である。

「の」の過剰使用数について見ると、1音節形容詞(「的」なし)と2音節形容詞(「的」あり)による「の」の過剰使用総数はそれぞれ11と26である。

表2 年少者における「の」の過剰使用状況(数字は過剰使用数)

被調査者 調査内容	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	q	r
1音節形容詞 (「的」なし)	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	0	0
2音節形容詞 (「的」あり)	7	0	0	0	4	0	1	4	1	0	0	0	0	6	2	1	0	0

表1と表2から、年少者に比べて成人のほうが全体的に「の」の過剰使用が多いことと、また成人にしても年少者にしても中国語で名詞の修飾語が1音節形容詞より2音節形容詞のほうが「の」の過剰使用が多いことが分かった。

3.3.3親子における「の」の過剰使用状況

表3は被調査者中の12組の親子における「の」の過剰使用状況である。

成人（親）では被調査者12名全員に「の」の過剰使用が現れた。中国語で修飾語が1音節形容詞（「的」なし）と2音節形容詞（「的」あり）の両方で「の」の過剰使用が現れた者が10名で、修飾語が2音節形容詞のみで現れた者が2名（D、J）である。

一方、年少者では12名中5名に「の」の過剰使用が現れた。中国語で修飾語が1音節形容詞（「的」なし）と2音節形容詞（「的」あり）の両方で「の」の過剰使用が現れた者が1名（a）だけで、修飾語が2音節形容詞のみで現れた者が4名（e、g、h、i）である。

また、A/a、E/e組を除き、年少者に比べ、成人（親）のほうが、「の」の過剰使用数が顕著に多かった。A/a組では成人（親）と年少者はいずれも誤用（「の」の過剰使用）が多かった。一方、C/c組とK/k組などでは、誤用の多い成人（親）に対し、年少者に誤用が全くなかった。

表3 親子における「の」の過剰使用状況（数字は過剰使用数）

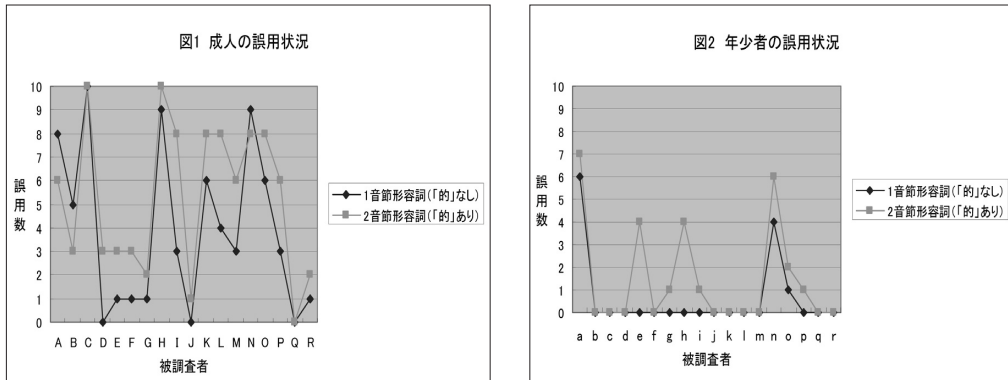
成人(親) 調査内容	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1音節形容詞 （「的」なし）	8	5	10	0	1	1	1	9	3	0	6	4
2音節形容詞 （「的」あり）	6	3	10	3	3	3	2	10	8	1	8	8
年少者 調査内容	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l
1音節形容詞 （「的」なし）	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2音節形容詞 （「的」あり）	7	0	0	0	4	0	1	4	1	0	0	0

表3からは、「の」の過剰使用において親子の間の影響はあまり大きくないことが分かった。

4 分析と考察

4.1 誤用率と有意差

図1と図2はそれぞれ成人と年少者の誤用（「の」の過剰使用）状況をグラフで示したものである。



被調査者全体（成人18名と年少者18名）の調査結果で分かるように、成人では、中国語で名詞の修飾語が1音節形容詞（「的」なし）でも2音節形容詞（「的」あり）でも「の」の過剰使用数が多く現れた。これに比べて、年少者では修飾語が1音節形容詞（「的」なし）と2音節形容詞（「的」あり）の両方とも「の」の過剰使用数が比較的少なかった。

そこで、中国語で名詞の修飾語が1音節形容詞（「的」なし）と2音節形容詞（「的」あり）の誤用率（「の」の過剰使用率）についてt検定（対応のある場合）を行ってみた。その結果、成人では危険率1%で有意差がみられ（ $t=3.079$, $df=17$, $p<0.01$ ）、年少者では危険率5%で有意差がみられた（ $t=2.731$, $df=17$, $p<0.05$ ）。

つまり、中国語で名詞の修飾語が1音節形容詞（「的」なし）の場合より、2音節形容詞（「的」あり）のほうが明らかに「の」の誤用率が高いことが窺えた。これは中国語の「的」の影響によるのではないかと思われる。

4.2 誤用率と習得年齢

では、「の」の誤用率の低い年少者を見てみよう。

図3は被調査者の来日年齢と誤用状況を示したものである。また、被調査者の来日期間（習得期間）が分かるように、調査時年齢と誤用状況を加えて図4に示した。

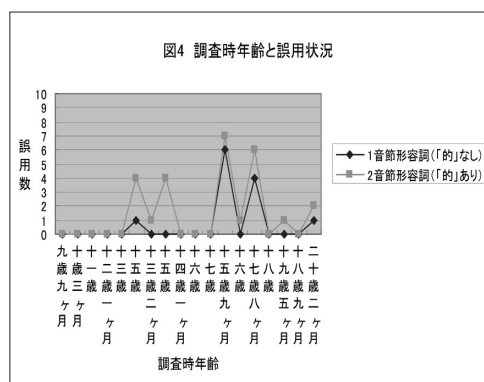
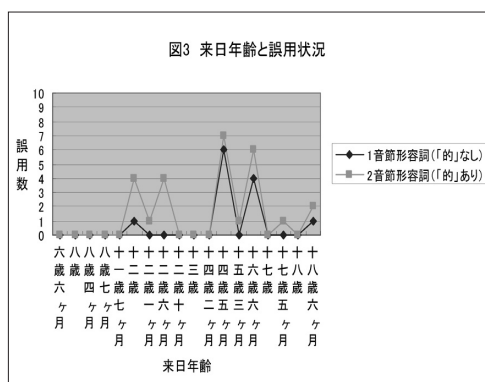


図3で分かるように、被調査者18名中、「の」の過剰使用が現れた者が8名で、来日年齢は12歳から18歳である（満年齢）。そのうち、12歳が3名で、14歳、15歳、16歳、17歳、18歳がそれぞれ1名である。

一方、「の」の過剰使用が全く現れなかった被調査者10名中、来日年齢は6歳から18歳に亘るが、そのうち、6歳から14歳の被調査者が半数以上の8名を占めている。そして、6歳から11歳の被調査者が5名もいることが分かる。

以上のことから個人差があるものの、第二言語を習得する際、年少者であるほど習得が早いことと、また母語が定着するほど、第二言語の習得にマイナスに影響することが窺えた。

4.3 誤用率と個人差

「の」の誤用率について、3.3の調査結果で分かるように、被調査者（成人および年少者）には大きく個人差が見られた。

例えば、成人では被調査者のA、C、H、Nの4名に中国語で名詞の修飾語が1音節形容詞と2音節形容詞の両方に誤用が多かったのに対し、Qには1音節形容詞と2音節形容詞のどちらにも誤用が現れなかった。また、年少者ではaとlの2名だけが比較的誤用が多かった。

このような個人差が起こる要因として、学習者の日本語習得年齢、習得期間のほかに、習得環境、学習意欲、母語力等が挙げられるだろう。

同じ国際結婚の日本人配偶者でも、学習者本人が普段日本語の勉強に意欲的に取り組んでいるか、また家庭や社会からどの程度の日本語支援を受けているかによって、学習者の日本語習得度が大きく左右される。例えば、家でも社会でも学校でも日本語学習者が言い間違いをすれば、本人が気づくまで直してくれる人がいるか否かによって、日本

語習得に大きな影響が生じる。

5 まとめ

本研究では、第二言語として日本語の名詞修飾を習得する過程の中で、修飾語がイ形容詞の場合に見られる「の」の過剰使用状況について、中国語母語話者（成人と年少学習者）を対象に調査を行った。

その結果、中国語で名詞の修飾語が1音節形容詞（「的」なし）と2音節形容詞（「的」あり）の「の」の誤用率（「の」の過剰使用率）に有意差が見られた。つまり、中国語で名詞の修飾語が1音節形容詞（「的」なし）の場合より、2音節形容詞（「的」あり）のほうが明らかに「の」の誤用率が高かった。このことから、「の」の過剰使用は中国語の「的」の影響が大きいことが窺えた。

また、成人に比べて年少者のほうが比較的誤用の少ないことが分かった。更に年少者のうちでも、日本語の習得年齢の小さい者には誤用が見られなかった。このことから、第二言語を習得する際に、年少者であるほど習得が早いことが窺え、母語が定着するほど、第二言語の習得にネガティブな影響が出るのではないと思われる。

なお、本研究では国際結婚の日本人配偶者とその子女を対象としたため、学習者の習得環境、学習意欲、母語力等により日本語の習得度に個人差が出ている。また、調査に用いた方法は即時訳出法であるため、調査結果は調査時の心理状態によっても多少影響を受けたと思われる。

【参考文献】

- 奥野由紀子（2005）『第二言語習得過程における言語転移の研究』風間書房
迫田久美子（1999）「第二言語学習者による「の」の付加に関する誤用」『第二言語としての日本語の習得に関する総合研究』平成8年度～10年度 科学研究費補助金研究成果報告書 pp.327-334
秦明星・丸田忠雄（2006）「第二言語習得と母語の影響について—年少学習者の助詞「の」の過剰使用と過少使用—」『山形大学紀要（人文科学）』第16巻 第1号 pp.83-97
鈴木忍（1985）『教師用日本語教育ハンドブック③ 文法Ⅰ』国際交流基金 凡人社
張 麟生（2002）『日本語教育のための誤用分析』スリーエーネットワーク

付録 調査に使われた中国語の短文とその訳文

1 音節形容詞文

- | | | |
|----|----------------|------------------------|
| 1 | 姐姐不喜欢吃甜食。 | お姉さんは甘いものが好きではありません。 |
| 2 | 老师给我买了一台新电脑。 | 先生は新しいパソコンを一台買ってくれました。 |
| 3 | 我们应该多做一些好事。 | 私たちはいい事をたくさんしましょう。 |
| 4 | 许多小金鱼在水里游。 | 小さい金魚がたくさん水の中で泳いでいます。 |
| 5 | 你喜欢喝凉茶吗？ | あなたは冷たいお茶が好きですか。 |
| 6 | 那些旧报纸可以扔掉。 | あの古い新聞は捨ててもいいです。 |
| 7 | 那幢高楼是公寓吗？ | あの高いビルはマンションですか。 |
| 8 | 朋友送给我一朵红玫瑰。 | 友だちは赤いバラを一本くれました。 |
| 9 | 那个系着蓝领带的人是我哥哥。 | あの青いネクタイをしている人は私の兄です。 |
| 10 | 请用黑色圆珠笔书写。 | 黒いボールペンで書いてください。 |

2 音節形容詞文

- | | | |
|----|-----------------|-----------------------|
| 1 | 他年轻的时候，非常潇洒。 | 彼は若い時、とてもかっこよかったです。 |
| 2 | 便宜的东西一般质量都不太好。 | 安いものは普通、質があまりよくないです。 |
| 3 | 阿姨家养了一只可爱的小猫。 | おばさんの家に可愛い猫を一匹飼っています。 |
| 4 | 别说这些无聊的话。 | つまらないことを言わないで下さい。 |
| 5 | 饭后最好不要做剧烈的运动。 | ご飯の後、激しい運動をしない方がいいです。 |
| 6 | 狐狸是狡猾的动物。 | 狐はずるい動物です。 |
| 7 | 温暖的春天终于来到了。 | 暖かい春がやっと来ました。 |
| 8 | 中国最长的河是长江。 | 中国で一番長い川は長江です。 |
| 9 | 那个人是从很远的地方来的。 | あの人はとても遠いところから来ました。 |
| 10 | 哈利波特是一部很有意思的电影。 | ハリーポッターはとても面白い映画です。 |

ダミー文

- | | | |
|---|--------------|-----------------------|
| 1 | 我们学校明天放假。 | 私たちの学校は明日休みです。 |
| 2 | 爸爸是大学老师。 | お父さんは大学の先生です。 |
| 3 | 我把弟弟的手机弄坏了。 | 私は弟の携帯を壊しました。 |
| 4 | 昨天的作业完成了吗？ | 昨日の宿題は終わりましたか。 |
| 5 | 最近韩国电视剧很受欢迎。 | 最近、韓国のドラマはとても人気があります。 |

The misuse of -no (の) and the effect by Chinese 的 – Study of one-syllable adjectives and two-syllable adjectives –

Mingxing Qin
Tadao Maruta

In this paper, we investigated the overuse of Japanese *-no* (の) when it is combined with *i*-adjectives by Chinese adults and young people who are learning Japanese as a second language.

The results show that there is a significant difference in misuse rate between the Japanese adjectives corresponding to the one-syllable Chinese adjectives that do not take 的 and the Japanese adjectives corresponding to the two-syllable Chinese adjectives that do take 的. That is, it was found that the misuse rate of *-no* of the latter is clearly higher than that of the latter. Consequently, it can be concluded that the overuse of *-no* is affected by the Chinese 的.

Additionally, it was found that the misuse rate among younger Chinese is lower than that of adults. Furthermore, fewer misuses were found among those young Chinese who started learning Japanese early. Accordingly, it was suggested that younger learners acquire a second language more quickly, and that firmly established mother tongue may affect the second-language acquisition.

Finally, since our research was conducted on Chinese spouses in international marriage and their children, there occurred wide differences among the subjects depending learning environments, wills to learn, mother-tongue capacities, and so on. Due to the encounter translation we used in the test, the subjects may have been affected by their mental conditions at the time of testing.